新聞制作の裏側大公開

各自の案を具体的に
①企画

新聞制作は特集の場合、企画を考えて組み立てるところから始まる。部員一人ひとりが考えた企画を持ち寄り、多かった意見を元に少しずつ具体的な案を練りだしていく。特集の良し悪しがテーマ設定1つで大きく変わるので、部員はいつも多くの時間をかけて企画を考えている。これは最も妥協が許されない仕事だ。

より読みやすい新聞を
②面割

紙面のレイアウトを『面割用紙』に割り付ける仕事を私たちは『面割』と呼んでいる。この仕事をする面担当者、略して『面担』は本紙を発行するごとに決められる。面担は読みやすさと目の引きやすさという観点から記事の配置を考えるが、これがなかなか難しくて書き直しになることが多く、根気がいる作業だ。

▶どこにどの記事を入れるか面割する。

三種の神器を片手に
③取材

新聞部には代々伝わる『三種の神器』というものが存在する。これは腕章・取材ノート・カメラの3つを意味しており、部員たちはこれらを片手にいつでも、どこへでも取材に出かける。

取材活動は多くの人との出会いがある、まさに新聞部の活動の根幹を為すものであり、得るものもとても大きい。

▲取材をする新聞部員

1字1字丁寧に
④執筆・校正

取材後、面担が指定した字数通りに記事を書く。パソコンに打ちこむのが最近の主流だが、パソコンの空き状況により手書きになることもある。書き終えた記事は部長や編集長のチェックを受けて入稿。その後の校正作業では訂正がある場合、赤ペンで1文字ずつ丁寧に直していく。

心を込めて1枚ずつ
⑤配布

校了を終えると数日後に完成した新聞が届く。クラスごとに仕分けをして、発行日の朝に部員が1枚ずつ生徒の机の上に置いていく。部員全員で苦労して作りあげた新聞を前にするときの達成感や喜びはまさに新聞制作の醍醐味である。

新聞作り＝記事を書くことだと思われがちだが、その過程には実に様々な作業がある。私たちはこうして次の新聞発行に向けて、また駆け出すのだ。（逢）

◀1枚1枚丁寧に配布する。

時代とともに消え行くもの　プール

東高生が忘れがちなこと。まずは上履き、そして何より水泳の授業であろう。なぜ東高ではプールが使われていないのだろうか。今井義尚先生にお話を伺うと、以下のことが明らかになった。

本校のプールは1966年9月28日に誕生した。もちろん最初からまったく使われていないというわけではなく、水泳の授業では14年前まで、水泳部の活動場所としては8年前まで実際に使用されていた。しかし、プールの上に生い茂る木の葉が中に落ちてきて衛生的に良くないということで、教育課程の改定をきっかけに授業で使われることがなくなった。そんなプールは次の校舎改築の際には完全に取り壊され、以後、この学校にプールが作られる予定はない。一流の国体選手を輩出したほどの場所にしては、なんともあっけない最後である。このことを今井先生は「衛生上の問題や老朽化は仕方ないとは思うが、寂しさを感じる」と話されていた。（藍）

◀プールサイドには寂しさが漂う。

1948 5.28 彦根東高校新聞誕生

- 49・4　彦根高校発足
- 49・7　現校章決定
- 50・4　野球部春の甲子園初出場
- 52・4　彦根高校が分離され彦根東高校誕生
- 52・10　現校歌決定
- 53・4　新聞部一時廃部
- 53　野球部春の甲子園2度目出場
- 58・7　体育館（現武道場）完成
- 60・5　生徒会初の女性生徒会長誕生
- 60・12　第二本館完成（今年で築50年）
- 61・10　第一本館完成
- 62・8　図書館完成
- 62・10　校舎改築竣工式挙行
- 66・3　東高新聞100号発行
- 66・9　プール完成
- 70・1　観測ドーム設置
- 70・11　同窓会が「金亀会」となる
- 71・1　初代大銀杏枯死する
- 73・9　旧校舎解体される
- 75・11　2代目銀杏植樹される
- 76・6　PTA「三ない運動」参加決議
- 78・12　銀杏会館完

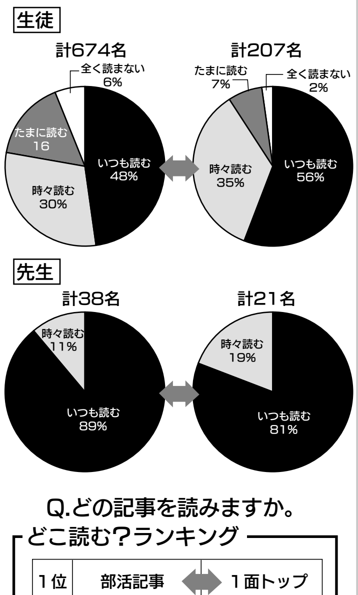
1950　1960　1970

市川先生、東高とともに

▲高校時代を振り返られる市川先生

東高のOBで、東高に長くおられる市川源一先生にお話を聞いた。先生は旧校舎も使われたことがあるそうで「そのころは1学級55人の10学級で、1学年8学級の現在の校舎では収まりきらなかった。だから順番に教室移動をして2か月間だけ旧校舎で学んだ。旧校舎に移ったのは冬だったので火鉢で暖を取っていたのを思い出す」と話してくださった。高校時代の学習について「現在はやらなくてはいけないことが多くなっているが、私が高校生の時は科目が少なく自分のやりたい勉強ができた」と現在との違いを答えてくださった。長い間東高で教えていて良かったと思うことを伺うと「親子で教えた生徒がいることだ。子どもを見ているとお父さんはこんな生徒だったなぁと懐かしく思い出す」と先生ならではの答えをくださった。（鰤）

350号⇔400号 アンケート比較



Q.どの記事を読みますか。

どこ読む?ランキング

	350号	400号
1位	部活記事	1面トップ
2位	一般記事	部活記事

これからも東高とともに

東高新聞400号

彦根東高新聞は1948年の創刊以来、数々の賞をいただいてきた。その賞がいただけたのはこの『彦根東高校』の存在が大きいと考える。なぜなら新聞を制作する際に必要なこと、それはいろいろと挙げられるだろうが『取り上げる出来事』が大きな部分を占めていることは間違いが無いからだ。藩校からの『伝統』を継承し、生徒たちは先駆者精神である『赤鬼魂』を持ち、昼間は勉学に、放課後は部活動にと『文武両道』を実践している東高ではどんな時でも功績が尽きることが無かった。その功績があってこそ新聞は『伝えよう』とするのであり、それが新聞制作の原動力であってきたのだ。400号を迎えたが、これは一つの区切りでしかなく、東高新聞はこれからも伝え続ける。彦根東高校がある限り。

（2年　細溝智宏）

中国料理
招禄 SHOROKU
〒522-0064
滋賀県彦根市本町1丁目8-33 植田ビル1F
TEL＆FAX 0749-22-7116

NPO法人音楽療法の会　さざなみ
事務局　〒520-2353　滋賀県野洲市久野部 1-54　三宅方
Tel&Fax: 077-588-2407
Email　yori_miya@hotmail.com
問合わせ先
滋賀県立大学人間看護学部　横井研究室
E-mail　yokoi@nurse.usp.ac.jp

音楽のことならなんでも ♪もりた音楽教室♪
彦根東高校新聞 400 号
おめでとうございます
米原市加勢野 488－2　TEL　0749(55)2831